

平成27年6月24日

会員各位

美しい多摩川フォーラム事務局

平成27年度 第1回 教育文化・環境清流合同部会

◆ 6月24日(水)、美しい多摩川フォーラムの平成27年 第1回 教育文化・環境清流合同部会が開催されました。概要は下記のとおりです。

- ・開催日時：平成27年6月24日(水) 15時～16時半
- ・開催場所：立川グランドホテル 2F キャンティ
- ・出席者：部会長、副部会長、運営委員、会員等

◎ 教育文化・環境清流合同部会の概要

1. 開会

2. 部会長挨拶

3. 講話(40分)

(テーマ)「市民や子どもたちによる多摩川流域一斉水質調査結果

(2013年度～2014年度)」

(講師) 渡邊 勇 部会長(おうめ水辺の楽校運営協議会会長)

4. 経過報告 ※はビデオ放映

(1) 平成27年度事業計画・同予算&実施内容(5/30総会配布資料)【資料1】

(2) 多摩川夢の桜街道～桜の札所巡り事業(桜ウォーキング)【資料2】

①4/2：羽村取水堰と玉川上水～美しい多摩川フォーラム、羽村市、福生市、リビング多摩、大谷桜守

②4/7：南浅川桜並木と陵南公園&高尾・多摩森林科学園～美しい多摩川フォーラム、京王電鉄、リビング多摩、大谷桜守

(3) 東北・夢の桜街道～桜の札所巡り事業(東北・夢の桜街道推進協議会)【資料3】

5/1：第4回“美しき桜心の物語”の語り会(八十八番・弘前公園、青森県弘前文化センター～語り部・平野啓子副会長)

(4) 多摩川“水”大学講座(5/22、6/19)【資料4】

(5) 東急百貨店「ココエコチャリティー」実施(5/28～)【資料5】

(6) 平成27年度総会開催(5/30)

(7) 調布市環境フェア出展(6/6)【資料6】

(8) 第8回多摩川一斉水質調査実施(6/7)【資料7】

- (9) 美しい多摩川フォーラムの森（青梅）下刈りイベント（6/27）
- (10) 多摩川っ子（第8号）発行（7月上旬）
- (11) 多摩川“水”大学講座（7/17、9/18）
- (12) 狛江古代カップ第25回多摩川いかだレース参加（7/19）【資料8】
- (13) 「東北・夢の桜街道推進協議会」平成27年度総会開催（7/22 青森県）
- (14) 第8回子どもカヤック体験教室開催（7/25）【資料9】
- (15) 多摩川1万人の清掃大会参加（8/2）
- (16) 第7回炭焼き体験と水辺の交流会開催（8/21）【資料10】
- (17) 第3回大人のカヤック体験教室開催（8/29）【資料11】
- (18) “多摩川酒蔵街道”のPRについて（9/1～）【資料12】
- (19) 第2回美しい多摩川フォト教室開催（9/18）【資料13】

5. 意見交換

- (1) 平成27年度活動計画等について【資料1】
- (2) その他

6. 部会長総括

7. 閉会

1. 開会（初参加者紹介および資料確認）

（事務局）

定刻になりましたので、美しい多摩川フォーラム平成27年度第1回教育文化・環境清流合同部会を始めさせて頂きたいと思っております。それでは、本日はじめて部会にご出席される方をご紹介します。

（青梅市 環境部 環境政策課 課長 細金 伸一 様）

細金と申します。日頃から青梅市の環境行政にご協力いただき、有り難うございます。また、来月、再来月には青梅市の親水事業を行っていただく予定ですので、今後ともよろしく願いいたします。

（八王子市 水循環部 水再生課 主事 根岸 大 様）

根岸と申します。八王子市でも、今年から水辺の楽校に登録されました。より市民にとって身近な存在になれるよう努力してまいりますので、今後ともよろしく願いいたします。

（公益財団法人 東京市町村自治調査会 事業部長 村松 正夫 様）

村松と申します。東京市町村自治調査会は、平成19年度から温暖化防止プロジェクトと題し、東京都内62区市町村と協働し、都内の緑を増やす事業を行って

います。本年からは、生物多様性の保全の観点から、区市町村に地域戦略策定に向けて支援する事業も行っております。多摩川に関しては、水質に十分配慮した地域戦略を作成できればと考えておりますので、今後ともよろしく申し上げます。

(公益財団法人 東京市町村自治調査会 事業部 企画課 主査 兼
調査部 研究員 幡野 尚裕 様)

幡野と申します。本日は、貴重なお話を伺えるということで、大変楽しみにしております。どうぞよろしく願いいたします。

(岡崎 学 様)

岡崎と申します。私は羽村生まれの羽村育ちで、多摩川にも縁があるのですが、部会は初参加です。この連休に、福生市でボタニカルアートの展示があり、私が青梅近辺で撮影した桜の写真も展示したのですが、大変好評でした。これからもよろしく願いいたします。

(辻下 修 様)

八王子市の辻下と申します。長年海洋環境の仕事に携わってまいりました。フォーラムで“水”大学講座があり、それを受講した縁で入会しました。よろしく願いいたします。

(府川 様)

府川と申します。先日、大國魂神社で開催された、平野啓子さんの語り会を聞いたのが縁で入会しました。今後ともよろしく願いいたします。

(事務局)

有り難うございました。なお、本日は、渡邊部会長にご講話をいただきますので、皆さんご期待ください。その前に、はじめに平野教育文化部会長、渡邊環境清流部会長よりご挨拶をよろしく申し上げます。

2. 部会長挨拶

(平野部会長)

皆さん、本日は大変お忙しい中、また昼過ぎの暑い中をお越し下さり、有り難うございます。このフォーラムは、設立されて何年も経ちますが、その間、事業が継続的に順調に行われております。そういった意味では、今日初めてご参加いただいた方々も安心してフォーラムに関わっていただけるのではないかと考えております。今日は色々なご報告がありますが、どうぞ忌憚のないご意見をいただければと思いますので、

よろしくお願ひいたします。

(渡邊部会長)

平成27年度・環境清流部会の活動は、5つの事業に分かれております。簡単に説明しますと、第8回多摩川一斉水質調査(6月7日実施)、多摩川一万人清掃大会(8月2日実施予定)、美しい多摩川クリーンキャンペーン(11月実施予定)、美しい多摩川の森づくり(6月27日実施予定)、多摩川“水”大学講座(5月～12月)です。皆さんのご協力をよろしくお願ひいたします。

3. 講 話

(事務局)

今日は、おうめ水辺の楽校運営協議会会長で、河川の水質調査に長年取り組まれている渡邊部会長から、「市民や子どもたちによる多摩川流域一斉水質調査結果」と題するご講話をいただきます。多摩川の水質についての現状認識や問題意識を高めていただけたらと存じます。間もなく前方のスクリーンにパワーポイントの画像が映し出されます。それでは、渡邊部会長、よろしくお願ひいたします。

(渡邊部会長)

皆さんに資料としてお配りした「身近な水の調べかた」(冊子)ですが、これは一般市民や子ども向けに作成されたテキストで、高度な機器を使うことなく水質を測定できるようになっています。また、多摩川上流から下流までの75地点の水質、特に電気伝導率と硝酸態窒素の結果をマップにしたものもお配りしましたので、後ほどご覧ください。それでは、「市民や子どもたちによる多摩川流域一斉水質調査の結果報告(2013～2014年度)」について説明させていただきます。

この調査は、(公財)とうきゅう環境財団から助成金をいただき、一般研究してまとめたものです。まずは昭和30年～50年頃の多摩川の様子を見ていきましょう。昭和30年～40年は、下水処理場がなかったため、家庭から出る洗濯した水や洗剤が、直接川に流れ込んでいましたので、川が泡だらけになっています。昭和39年、多摩地域における初めての下水処理場が、三鷹に建設されました。続いて昭和42年には立川にも下水処理場が設置されました。その後、昭和53年には多摩川上流水再生センターが昭島市に完成し、玉川上水の清流復活は昭和61年でした。昭和45年、いわゆる公害国会で、水質汚濁防止法が制定され、昭和43年3月には熊本水俣病裁判の原告勝訴が確定し、水環境に対する世論の関心が一挙に高まりました。しかし、身近な環境を見つめる人々の眼は、まだまだ十分に肥えてはいませんでした。京浜工事事務所の看板は、流域の人々の関心を高めようとして設置されました。東京の環境が今に至る背景には、このような

地道な努力があるのです。

こちらは、多摩川の水環境の現状がどうなっているのかをマップにしたものです。小河内ダムから東京湾までありますが、その間、小作取水堰と羽村取水堰があり、拝島から下流には東京都の流域下水道が6カ所あります。また、先ほどお話しした三鷹下水場や立川錦町下水処理場、北野下水処理場もあります。これらの施設で処理された水は、すべて多摩川に放流されますので、多摩川の水質は、この下水処理水にかなり影響を受けます。生活環境の保全に関する環境基準（河川）では、多摩川を3つの段階に分け、和田橋から上流＝A A、和田橋から拝島橋＝A、拝島橋から下流＝Bとしています。下流に行くほど基準が緩くなっています。また最近、水生生物の保全に関する環境基準も定められ、拝島橋より上流＝生物A、拝島橋より下流＝生物Bとなっています。基準値の中にはノニルフェノール（環境ホルモン）、アルキルベンゼンスルホン酸（洗剤）、亜鉛が入っています。取水に関しては、上流の小作、羽村取水堰以外にも、調布取水堰があります。ただしここでは伏流水（地下水）を取水しているそうです。下水処理場には、合流式と分離式があり、合流式は、雨水と下水処理水と一緒に下水処理場に入ってきます。大雨が降ると、大量の雨水がいきなり処理場へ入って来て、処理しきれなくなり、そのまま多摩川に放流されてしまい、問題です。出来るだけ分離式にし、雨水は川に流し、下水は下水処理場に流すということをしなければなりません。

昭島市にある多摩川上流水再生センターは、立川市、青梅市、昭島市、福生市、武蔵村山市、羽村市、瑞穂町の6市1町の下水処理場で、処理した水がどれくらいきれいになっているかという、BODでは流入水18に対し、放流水2となり、かなりきれいになっています。CODでは流入水90に対し、放流水9となっています。我々の水質調査はCODで行っていますので、下水処理水が混ざる地点では、どうしてもCODの値が高くなってしまいます。多摩川の水の6割は下水処理水と言われているので、これはやむを得ないことです。ですから、拝島橋より上流のCOD値はほとんどゼロに近いのですが、拝島橋より下流については、下水処理水が混じるのでCOD値も高くなります。また、全窒素ですが、東京湾の赤潮や青潮に影響しますので、なるべく減らしたいところですが、処理が大変なので、莫大な費用をかけないと減らすことができません。次に清流復活ですが、これは二次処理水にPACを加えてリンを落とし、オゾンを入れて有機物を分解した高度処理水を、野火止用水、玉川上水、千川上水に放流しています。この高度処理水には8,000万円/年（野火止用水）、1億3,000万円/年（玉川上水）の費用がかかっており、水をきれいにするにはいかにお金がかかるか、我々の都民税で払っているということです。高度処理されない下水処理水は、多摩川に直接放流されます。

これら5枚の写真は、多摩川上流水再生センターの下水処理水放流口および多

摩大橋の下流の様子です。3年前に撮影したこの写真では、洗剤がまだ完全に分解されず、泡が浮いていますが、その上をカルガモが泳いでいます。この写真は、多摩大橋の数百メートル下流から撮影しました。この地点は、毎年水質調査の採水現場です。この地点は、窒素・リンが高いので、このようなコケが沢山生えています。水の中を見ると、石の表面に緑藻が出来ています。この間、NHKテレビで多摩川の魚について放送がありましたが、「むしろ窒素・リンが高くてコケがあるからアユが遡上してきた」という説明をしていたので、必ずしも窒素・リンが低ければ良いというものではないということです。

清流復活の全体図を説明いたします。多摩川上流処理場で高度処理された水は、地下を通過して小平監視所を經由し、野火止用水や玉川上水に放流されます。また、下流では、目黒川や渋谷川で、清流復活としての高度処理水が放流されています。これら4枚の写真は、小平監視所の写真です。ここが玉川上水の放流口です。私が玉川上水を散歩すると、少し下水のにおいがします。高度処理を行っても、においを取るためには活性炭処理等に莫大なお金がかかります。

こちらは羽村取水堰の概略図です。小河内ダムから小作取水堰を通った水は、一部、村山・山口貯水池に送られます。羽村取水堰で取水された水は、小作浄水場でろ過され、青梅市などの市民に供給されます。ですから、先に羽村取水堰ができ、その後で小作取水堰ができたと思われれます。羽村で取水された水は、玉川上水を經由して小平監視所へ行き、そこから東村山浄水場へ送られますが、これだけでは足りないため、利根川や荒川の水が朝霞浄水場を經由して東村山浄水場へ送られます。東京都としては、多摩川の水を2割利用し、利根川等の水を8割利用しているそうです。

小河内ダムからくる水は150万トン/日で、小作取水堰(20万トン/日)と羽村取水堰(58万トン/日)で取水され、残りの約半分(72万トン/日)は下流にいきます。取る水は一定なので、沢山の雨が降らないと、下流の水はどんどん減ってしまいますので、下流の水のほとんどが下水処理水になってしまいます。

それでは、「市民や子どもたちによる多摩川流域一斉水質調査結果の報告(2013年度～2014年度)」をさせていただきます。まずは、多摩川の上流から下流までの75地点で水を採取しますが、これが大変です。人手をかけて採水した貴重な水ですので、全国的なCOD値だけではなく、この水を用いて電気伝導率や硝酸態窒素、リン酸態リン、今年は濁度も調査しました。この写真は、青梅信用金庫本店1階で測定をしている風景です。電気伝導率は、水の中に溶けている無機イオンです。硝酸態窒素とリン酸態リンは、東京湾の赤潮・青潮の問題になるもので、大変重要な水質項目です。COD値の測定は、当フォーラムでは2008年から実施しており、パックテストを用いて測定しております。電気伝導率

は、電気伝導率計を用いて水の中のプラスのイオンとマイナスのイオンを計ります。海水や下水が入ってくると値が高くなります。硝酸態窒素やリン酸態リンは、このような測定器を用いて測定を行います。

多摩川の水源は笠取山の水干で、多摩川の流れはここから始まります。多摩川の河口から水干まで138kmです。水干の地点が138kmで、加工は0kmです。最近ほとんど見ることがないと思いますが、雨が降らない時、硝酸銀をまいて核を作って雨を降らせる人口降雨発煙所がここにあります。多摩川流域の人口は約425万人です。過去の部会で、「多摩の人口は全国都道府県で10位に入るのだから、多摩地区は独立したほうが良い」なんていう話もありました。

こちらは水質調査地点75カ所の一覧表で、毎年採水をしているのですが、地点をきっちりと決めておかないと経年変化が読めません。一般市民が行うと、出来るだけ汚いところから採水してきたりするので、経年変化が分かりません。これは、緯度経度を決めていますので、パソコンやスマホを用いてGoogleや国土地理院のサイトで緯度経度を入力すると、場所がきっちりと特定でき、経年変化も見ることができます。この75地点の緯度経度を調べるのに6日間かかりました。

緯度経度ですが、日本測地系と世界測地系があるということを頭に入れておいてください。Googleマップや国土地理院は世界測地系を基準としていますが、ゼンリンは日本測地系なのです。そもそも基準が違うので、車のカーナビ（ゼンリン）に緯度経度を入れると狂ってしまいます。なので、世界測地系から一度日本測地系に値を変換する必要があります。しかし、緯度経度さえ分かれば、住所のない川や山でも便利です。

これは、75カ所の調査地点を、緯度経度とマップ、現地の写真を貼り付けて明確にしたものです。

COD（化学的酸素要求量）の測定ですが、水の中に含まれる、下水や家庭から排出される有機物の量を表わす指標です。COD値が高いということは、水の中の有機物が沢山あるということです。測定は、パックテストを用います。水質を判断する時の目安ですが、COD値0mg/l=きれいな水、1mg/l以下=ヤマメ、イワナなどが生息できるなど、大まかな基準が設けられています。実際の川の環境基準では、BOD（生物化学的酸素消費量）を使いますが、20℃で5日間暗所に置いて培養した時の消費量を計るので、一般市民には測定できません。なので、COD値を測定するのです。

これは2013年度のCODの結果です。これを見ると、ところどころに高い値が出ていて、これをどう判断するかは難しいのですが、2以下ならまず問題ないと思います。しかし、調査地点47番・多摩大橋下になると、COD値が急に高くなります。ここは下水処理場の下流にあたるので、下水処理水による影響だ

ということがはっきりと分かります。

多摩川本流の次に、支川を見てみましょう。小菅川、日原川等もすべて2以下です。しかし、残堀川だけは高いです。これは恐らく、生活排水が入っているのだと思います。また、東名自動車道下湧水の値も高くなっています。これについては、もう一度現地を見て状況を確認しないと分かりません。

次に、電気伝導率の測定ですが、水の中に含まれるプラスのイオンとマイナスのイオンを計ります。例えば上流では、石灰山があると、雨が降ってカルシウムイオンやマグネシウムイオン等のプラスイオンが水に溶けだします。下水が入ってくると、我々は塩分を摂取するので、ナトリウムイオンや塩化物イオンなどのマイナスイオンが入ってきます。理論純水（ 0.0055 mS/m ）は、抵抗の逆数です。では何故ゼロではないのかということですが、水そのものも一部解離しているからです。pH=7となり、7以下は酸性、7以上はアルカリ性となります。雨水の電気伝導率は1～3、上流のきれいな水は5～10、下流の汚れた水は20～40となります。雨水の値が何故高いかという、温暖化の問題で空气中に炭酸ガスが含まれます。これが溶け込んで値が高くなるということです。

これが実際に多摩川の上流から下流までを測定した電気伝導率の結果です。2013年と2014年の比較ですが、2013年の39番の値が異常に高いですが、2014年は低くなっているのが、サンプルの採り方なのか、何らかの影響があったものと思われる。こちらでもやはり47番になると値が急に高くなるので、生活排水が混ざっていることが分かります。73番以降、急激に値が高くなっていますが、これは海水が入っている証拠です。こういったように、下水が入っている、海水が入っているということが分かります。

支川についても同じです。残堀川で値が高くなっています。

次に窒素です。タンパク質やアミノ酸が分解されるとアンモニウムイオンになり、これが酸化すると亜硝酸イオン、更に酸化すると硝酸イオンになり、これらは並行関係にあります。水の中の酸素の状態によってこれが変化します。アンモニウムイオンがアルカリ化や高水温化すると、魚にとって大変有害なアンモニアになります。

こちらは硝酸態窒素の結果ですが、やはり47番の地点で急激に高くなります。ところが、71番・丸子橋下水処理出口下流側を見ると、値が低くなっています。これは、たまたま水が還元状態にあり、酸素が少ないアンモニアになっている可能性があります。そのため硝酸態窒素が少ないのです。

これは東京都環境局のデータですが、やはり拝島橋付近から値が高くなっています。下水処理場の影響です。

これは電気伝導率をマップ化したものです。

これはリン酸態リンの結果です。1番～46番は、測定限界に近いので、値が

ゼロに近いですが、やはり47番になると値が高くなります。特に71番が高くなっています。

そしてもう一つ、東京都のデータで羽村堰の気温と水温を調べてみますと、1月は気温・水温がほぼ同じですが、日野橋では、1月の気温が5℃なのに対して、水温が12℃くらいあります。これは、下水処理水の温かい水が混ざるためです。ですので、下水処理場が混ざるところは水温が高くなり、生態系にも影響が出て来ます。羽村から上流は下水処理水が混ざらないので、生態系にも影響はありません。

こちらは、赤潮が発生する東京湾のデータです。世界や日本国内の他の湾と比べても、東京湾で赤潮が発生する頻度が高いです。赤潮は、慢性的な富栄養状態が続き、酸欠状態になると発生します。

しかし、今年の東京新聞を見ると、「アユが500万尾遡上、水質改善」というニュースが載っています。

これまで、下水処理場は悪者だという話ばかりしてきましたが、先日、NHKクローズアップ現代で、「下水処理場は宝の山」だと特集していました。各家庭から出る下水が下水処理場に集まり、下水汚泥でメタンガスを発生させることで、発電するというものです。国土交通省でも期待をしています。全国では既に30ヵ所まで下水発電が進められています。東京都ではまだ実績がないようです。メタンガスから水素を取り出し、燃料電池として車を走らせることもできます。その他、肥料にも有効活用が期待できます。日本は、リン原料を全量輸入していますが、現在、下水汚泥からの回収が検討されています。また、窒素やリンは、多少は無いと海苔が育ちませんので、両面から考えて、上手く活用していくことが重要だということです。以上で終わります。

(事務局)

渡邊部会長、有り難うございました。せっかくの機会ですので、ご質問のある方は挙手をお願いします。

(山崎教育文化副部会長)

下水処理場ありきで多摩川は成り立っているのですが、それ以前の問題で、小作取水堰、羽村取水堰で多摩川の水のほぼ全量を採ってしまっています。取水された水は、浄水場を通過して荒川等に流されたりもしています。多摩川に水を戻してもらわないと、下流は水が少なくて困っています。水の使い方など、人間の知恵も使えたら良いなと思っています。

(渡邊部会長)

拝島橋よりも上流の硝酸態窒素は0.5ですが、下流では5～8と高くなっています。これは下水処理水の影響です。拝島橋よりも上流は確かにきれいなのですが、地下水も実は窒素が高いのです。拝島橋よりも上流か下流かでは、確かに違いがあります。きれいな水を出来るだけ下流に流すために、トイレや風呂の水は雨水を使うようにすれば良いのではないのでしょうか。例えば青梅市役所では、地下に雨水を貯め、トイレの水に使用しています。そういったことを東京都全体として考えないと、なかなか上流のきれいな水を下流まで流すのは難しいと思います。

(山崎副部会長)

今の下水処理場の能力からすれば素晴らしいと思います。人間の中を通った水をまた再利用しているのですから。しかし、少し奥多摩の水で薄めてほしいなと思います。

アユの遡上については皆さん誤解していると思うのですが、2011年にはアユが1200万匹遡上しています。この半年で半減しています。毎年遡上数が落ちています。このままでいくと、アユの遡上数は10年前に逆戻りです。下水処理の影響ではないと思いますが、認識を新たにしていきたいと思います。

(事務局)

有り難うございました。それでは渡邊部会長に今一度拍手をお願いいたします。

4. 経過報告

(事務局)

それでは、経過報告に移ります。その前に、フォーラムの活動をより効果的にPRするため、本年3月に事務局がプロモーションビデオを手づくりで制作しましたので、ご覧ください。(ビデオ放映)いかがでしたでしょうか。今年度の当フォーラムの活動につきましては、お手元の資料の表紙に時系列でお示ししておりますので、ご参照ください。

(3) 東北・夢の桜街道～桜の札所巡り事業(東北・夢の桜街道推進協議会)【資料3】

5/1: 第4回“美しき桜心の物語”の語り会(八十八番・弘前公園、青森県弘前文化センター～語り部・平野啓子副会長)

- ・【資料3】をご覧ください。東日本大震災復興支援プロジェクトの一環として「第4回“美しき桜心の物語”の語り会」が青森県弘前市の弘前公園前にある弘前文化センターで開催され、今年も平野副会長にご出演をいただきました。本件につ

きまして、平野副会長より一言お願いします。

(平野副会長)

去年までの3年間は、直接震災の被害を受けた3県（福島県、宮城県、岩手県）で語り会を行いました。他の3県、青森県、秋田県、山形県も間接的な風評被害を受けていて、特に観光収入が減っていると聞いています。今年は青森県の弘前市で語り会を行いました。今までは、関東や県外からのお客さまも多く、被災地で食べて飲んで買って泊っていただく、まさに観光支援型で復興応援をしていただいたのですが、今回集まった方々はどちらかというと地元の方が多かった。今までは、「来てくれて有り難う」という、被災地ならではの感謝の言葉が多かったのですが、今回は、「内容が良かった」、「これからも地元を活性化させていきたい」等、内容そのものを良く見てくれて評価してくれる感想が多かった。これからどんどん風化が始まり、被災地3県のことすら忘れてしまう中で、文化で盛り上げていくことに重きを置いていくと更に良いのではないかと思います。弘前では、瀬戸内寂聴さんの「しだれ桜」を上演し、男女の色っぽい縁を描いておりますが、細野会長がとても気に入ってくださっていて、また、森田副会長も遠路はるばる会場まで駆けつけてくださり、応援してくださっています。公演の後半は、地元ゆかりの話をしていきますが、今回は青森なので、太宰治の「走れメロス」を朗読で披露しました。また、弘前城にまつわる歴史のお話もしました。弘前城が、南部と津軽が大きく対立している要因になったことを知り、歴史の奥深さを再認識しました。今は文化に目を向けられる平和な時代の良さを感じます。桜はほぼ散ってしまいましたが、夜桜はまるで満開のようでした。桜は多くの人に足を運ばせる材料になる素晴らしい生き物だと思います。桜に心を寄せる人は桜がその人を助けると思っています。実際に桜守をされている方は不思議な体験をされています。なので復興や地域活性に桜を利用するフォーラムの活動に、いざ桜が助けしてくれると思いますので、今後も大いに盛り上げていきたいと思っております。来年は秋田県で語り会を行いますので、よろしく願いいたします。

(4) 多摩川“水”大学講座 (5/22、6/19)【資料4】

- ・ 【資料4】をご覧ください。今年度は八王子市様との共催のもと、5月22日に開講しました。4年目となるこの講座ですが、講師には引き続き、小倉副会長を迎え、この講座を通じて、水環境に関するリーダーの養成を目指します。

(5) 東急百貨店「ココエコチャリティー」実施 (5/28～)【資料5】

- ・ 【資料5】をご覧ください。東急百貨店ホームページのトップページに紹介されているとおり、5月28日より、東急百貨店の本店をはじめ10店舗において、ココからはじめる身近なエコ「ココエコ・チャリティー」が開催されており、今

年もオリジナル・チャリティーグッズが販売されています。本日、サンプルをお持ちしましたのでどうぞご覧くださいませ。これは、東急百貨店様のCSRの一環として企画されたもので、今年で6回目となります。環境活動に積極的に取り組んでいる団体として「美しい多摩川フォーラム」に売上金の一部を寄付し、多摩川流域周辺の環境保全活動に貢献しようというものです。美しい多摩川フォーラムでは、いただいた寄付金を、「多摩川一斉水質調査」などの活動に役立てております。皆さん、ぜひお早めにお買い求めいただき、フォーラムに還元していただければ幸いです。……ということですが、本日は事務局で多少ご用意がありますので、1個200円になりますが、よろしくお願ひします。なお、お預かりした金額は、まとめて東急百貨店にお振込みさせていただきますことをご報告させていただきます。

(8) 第8回多摩川一斉水質調査実施 (6/7) 【資料7】

- ・ 【資料7】をご覧ください。フォーラムが直接担当した調査地点のCODの調査結果を速報としてお届けするものです。今回も、上流の山梨県丹波山村から最下流の河口の0キロポストまで、多摩川水系の流域75地点の調査を実施しました。調査にあたっては、渡邊環境清流部会長をはじめ、山崎運営委員、奥山アドバイザーにも、採水・測定のご協力をいただきました。今回の調査は、CODに加え、電気伝導率、新たに水の濁りを調査する濁度の測定を行いました。こちらの測定結果は、9月頃にまとまる予定です。なお、詳細なCOD調査結果レポートは、例年どおり11月に発行する予定です。本件につきまして、渡邊部会長に一言お願ひします。

(渡邊部会長)

傾向としては、下水処理水と海水の影響がかなり出ていますので、詳しくは【資料7】をご覧ください。

(12) 狛江古代カップ第25回多摩川いかだレース参加 (7/19) 【資料8】

- ・ 【資料8】をご覧ください。今年も「美しい多摩川フォーラム号」として出艇します。今回は第25回記念大会とあって、いかだには、狛江市長をはじめ、世界陸上でも銅メダリストになった千葉真子さん、当フォーラムのダニエル・カール副会長、狛江市職員、フォーラム事務局の5人が乗り込み、第1レースに出艇します。皆さん、ぜひ、会場に足を運んで、応援をよろしくお願ひいたします。

(18) “多摩川酒蔵街道”のPRについて(9/1～)【資料12】

- ・ 【資料12】をご覧ください。当フォーラムでは、昨年9月に「多摩川酒蔵街道」を公表いたしました。チラシについては、JR東日本八王子支社ご協力のもと、50を超える駅に配置したほか、大多摩観光連盟様が発行しているPR誌「大多摩四季報」にも2ページにわたってご紹介いただき、大いにPRすることができました。その後、11月～12月にかけて、旅行会社がツアー商品を販売し、特に、はとバス様では、延べ8回、約300名が参加され、瞬く間にヒット商品となりました。さらに、今月6日には、JR東日本様が“多摩川酒蔵街道”お座敷列車の旅を催行され、満席の120名が参加し、大いに盛り上がりました。今秋は、チラシをリニューアルし、連携先の皆様のご協力のもと、取り組んで参りますので、よろしく願いいたします。本件につきまして、小澤運営委員に一言お願いいたします。

(小澤運営委員)

酒蔵街道およびお座敷列車について、御礼を兼ねてお話させていただきます。酒蔵は西多摩に5蔵あり、文化的な資産であるという観点から、酒蔵で西多摩の酒を飲むという「多摩川酒蔵街道」を企画していただきました。これが大変好評で、JRさんがそれをツアーにし、新宿から奥多摩までお座敷列車を走らせ、片道2時間の間に沢山のお酒を飲んでいただきました。うちの酒蔵に到着する頃には泥酔している人が3名いたということで、まさに「酔っ払い街道」です。お陰様で大変多くの方に多摩川の上流を見て感じていただけたかなと思います。有り難うございました。

(事務局)

有り難うございました。なお、小澤酒造さんでは、「夢の桜街道」というラベルを貼ったお酒を販売され、売り上げの一部を東北・夢の桜街道推進協議会にご寄付いただくことになりました。有り難うございます。

経過報告は以上です。平野部会長、よろしく願いいたします。

5. 意見交換(副部会長)

(平野部会長)

はじめに事務局の方から説明してください。

(1) 平成27年度活動計画等について【資料1】

(事務局)

【資料1】の平成27年度事業計画・同予算(案)をご覧ください。まず、収入の

部ですが、会費収入は2,100,000円を見込んでおります。青梅信用金庫様より寄付金として8,000,000円、青梅市様より委託金として276,000円、とうきゅう環境財団様より助成金として、多摩の物語について228,000円を予定しております。一方、支出の部ですが、総会等運営費として、3,666,000円、各種活動費として7,714,200円を計上しております。運営費についてですが、平成26年度事務雑費等の中に見込んでいた印刷費を分離し、印刷費等396,000円、事務雑費等200,000円として計上しております。活動費のうち、新規案件として上がっていたシーカヤック体験教室については、インストラクター確保難のため、安全面を考慮し、見送ることといたしました。“酒蔵街道”商標登録申請費については、平成26年度中に追加予算として計上したものの、特許庁の商標登録完了が結果的に4月15日となり、年度をまたぐこととなったため、繰越計上しました。新規事業に当たる「御岳・冬物語」については、事業内容を事務局で検討中です。

なお、東北・夢の桜街道運動として、例年同様、2,000,000円を計上しておりますが、これは東北復興支援事業として、東北・夢の桜街道推進協議会に拠出します。この結果、次期繰越金は1,143,790円となり、合計では、12,523,990円となります。次ページ以降に、平成27年度事業計画の主な実施内容、事業計画の趣旨説明、主な事業活動の予定、会議&シンポジウムの予定があります。後ほどゆっくりとご覧くださいませ。

(平野部会長)

それでは、皆さん、ご質問やご意見がございましたら、お願いします。ないようですので、私から一言申し上げます。先ほどお酒の話が出ましたが、お酒の話題になると場の空気が一気に暖まります。私もお酒好きですが、改めてお酒の力はすごいなと思いました。実は「夢の桜街道」のお酒は、塩竈神社で語り会を行った際、打ち上げで地元の飲み屋に持ち込んで「東北復興のために作られたお酒です」と説明して大将に見せたら、「小澤酒造さんじゃないか!」と、大変感激してくださり、「皆に盃を配れ!」ということになり、一般のお客さんも一緒にお酒を分かち合いました。東北のお酒で名を売っているお店に来るお客さんたちが「美味しい!」と感動していました。他に何かご質問等ございませんか。

(岡崎様)

「御岳冬物語」が調整中となっておりますが、どの程度まで話が進んでいるのでしょうか。時期的に、神楽や霜柱等も考えられたらどうかと思います。

(事務局)

貴重なご意見を有り難うございます。企画自体が調整中で進んでいないのですが、基本的には12月開催を予定しており、食やおもてなしに関する講演をして、地元の食材を召し上がっていただき、宿坊にお泊まりいただくのがひとつのパッケージなのですが、いまいただいた意見を参考に、プランニングをしていきたいと考えています。

(平野部会長)

他には何かありますでしょうか。ないようでしたら、その他について、事務局よりお願いします。

(2) その他

(事務局)

本日、席上配布資料として、福本さんからご説明があるそうなので、福本様よろしくをお願いします。

(福本様)

お手元に、新聞の切り抜き資料があると思いますが、玉川上水が世界遺産になりました。小平市に「ふれあい下水道館」があり、実際に流れている下水道の中へ入れる実地体験コースがあります。キーワードは、玉川上水と玉川上水駅です。学生さんたちに集まってもらう予定にしております。世界遺産は間違いなくとれると思います。

(事務局)

事務局から1点報告があります。青梅信用金庫では、「多摩川夢の桜街道応援定期預金」として、4月から2ヵ月間販売し、募集総額の0.01%の195,415円が多摩川フォーラムに寄付されることとなりました。事務局からは以上です。

6. 総括・閉会 (部会長)

(渡邊部会長)

先ほどお酒の話が出ましたが、昨日プライムニュースで、富山の市長さんが出ていて、市に行くには、車でいったら飲めないなので、出来るだけ公共交通機関を充実させ、車を使わないようにさせなければならない、そうすることで街が活気づくとお話ししていました。

6月27日(土)には、御岳で下草刈りが予定され、青梅西中の子どもたちが協力してくれることになっています。この森を上手く活性化できれば良いなと思っています。CO2を減らすには、木を育てなければなりません。多摩地区の森林は、炭酸ガスを吸わない状態になっているので、一度植え替えて炭酸ガスを吸うようにしなければ

ならない時期にきています。そういった運動を今後していく必要があるのかなと感じています。今日は有り難うございました。

(平野部会長)

既に沢山話しましたので、一言言わせていただければ、先ほど玉川上水が世界遺産になったというお話がありました。世界遺産は、日本人にとって価値があるものなので、今後もアピールできるように、皆さんのお力をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。これで平成27年度・第1回教育文化・環境清流合同部会を終了致します。有り難うございました。

以 上